

Circular

理
工
サー
キュ
ラー



内定者に
聞いてみた

日大理工生の
就活レポート

02

CST⁺なひと
清水建設株式会社
渡部 俊宗さん

04

2018 年度就職活動いよいよ始動！

06

内定者による就職活動レポート(企業編)

08

内定者による就職活動レポート(公務員、教員編)

10

私の研究歴 142
安全・安心・癒やしを求めて
電気工学科教授 小野 隆

12

学生記者が行く！ 036

13

ZOOM UP !! CIRCLE
建築構造デザイン研究会 / 将棋研究会

14 culture

15 announcement

16 event report

特
集

清水建設株式会社

日本大学理工学部駿河台校舎南棟（仮称）新築工事

渡部 俊宗



日本大学理工学部（CST）で過ごした学生時代を自分の力（十）にかえて、各界で活躍する卒業生にお話を伺う「CST+なひと」。

今回は、現在建設工事中の駿河台校舎南棟（仮称）新築工事に施工管理として携わる、清水建設株式会社の渡部俊宗さん（建築学科卒）です。

デザイン志望から構造、そして施工管理に

私は建築デザインがしたくて建築学科に入学したのですが、設計の授業を受けるうちに周りと比較して「自分のセンスで、将来やっていけるのか？」と不安になりました。もともとRC（鉄筋コンクリート）造の建物が好きで、RCについての研究ができるならおもしろそうだと、研究室は設計系ではなく構造系を選びました。4年生から大学院修了まで、RC造の建物の損傷評価に関する研究をしました。地震が来たときに、建物の危険度（どの程度被害を受けるのか）を想定する「被害想定」を示す、ある種のハザードマップを作る研究です。

漠然と「将来は構造設計をしたい」と考えていたのですが、いざ就職について考え、いろいろな職種の先輩方にお話を聞いていくうちに「施工管理がいいな」と思うようになり、建設会社に就職し施工管理になることを目指すようになりました。

南棟（仮称）の現場

入社当初は、品川区で建設中の幼稚園の現場に配属されました。その現場は、幼稚園のほかに中学・高校の校舎も同時に建てるプロジェクトでした。初めての現場で2つの現場を同時に見られ良い経験になりました。最初は本当に何もわからず、現場の職人さんに必要な資材などを注文されても「それって何ですか？」という感じでした。新人は先輩社員に付いて仕事をしますが、その先輩がとても優秀な方だったので、いろいろな知識を吸収することができました。翌年の9月まで1年少々、初現場を経験した後、2015年9月から南棟（仮称）の現場に配属されました。

施工管理の仕事とは、「QCDSSE（Q：品質、C：コスト、D：工程、S：安全、E：環境）。この現場ならではの特徴はいくつかありますが、大きな特徴は工事用の敷地がとても狭いことです。南棟（仮称）の隣にある5号館は、いざ解体し緑地化されます。一般的には5号館を解体した後で建設工事を進め、5号館跡地は資材ヤードや搬入の動線として使用します。しかし南棟（仮称）建設中はまだ5号館を使用していますから、物を置いておく場所がないので、現場のタイミングをうまく調整して資材を取り込む、という計画が重要になります。

ほかにも、地下3階まで掘り進めた

ので地下水の処理計画が必要で、すくそばには建築が専門の先生方がたくさんいらつしやいますから、設計段階にも工事段階にもいろいろな意見が出てその調整作業が必要なことも、この現場ならではです。

工事を進める上で大事な工程表は、自分で考えながら作っていきます。施工管理のおもしろさは、自分の考えを実行できることです。「こうしなければならぬ」というものはないので、「こう進めていきたいので、こうしてはどうでしょう?」と工程表を作ると、その流れで建物が作られていきます。うまく進むと「自分の考えた通りで良かったんだ」と実感できるので、とてもおもしろいです。

最近では建設業界全体で女性が働きやすい現場作りを進めていますし、実際に私の後輩にも女性の現場監督がいます。建設現場の職人さんは男性がほと

んどなので、私が言うのと女性の現場監督が言うのでは、結構反応が違います。これからさらに、女性の現場監督が増えると思いますし、もっと女性が活躍できる場になると思います。

知識と人間性を兼ね備えた現場監督に

日本大学の卒業生はたくさんいます。とくに建築業界に進もうと考えている人にとっては、どここの会社にも理工学部建築学科の卒業生はいますから、仕事がしやすい環境にあるのではないかと思います。それは実際に建設会社に勤めていて、実感しています。同じ大学出身ということで親近感がわき、コミュニケーションが取りやすくなることもあります。

私は建築学科を卒業して建設会社で働いていますから、勉強したことがそ

のまま実務に生かしていると思います。とくに構造力学は、荷重の検討に直結しています。仕事をやる前は、施工管理にデザインはあまり関係ないと思っていました。大いに役立ちます。言葉ではなかなか伝わりづらいことも、スケッチで説明するとすぐにかつてくれます。デザイン系の勉強も施工管理で生きるな、と思います。施工管理もたまに図面を描きますから、CADが使えるといいですね。

私が先輩に教える立場になって気づくのは、人に何かをやつてもらうのはすごく難しいということ。職人さんたちはノウハウがあるので、要望を言えばある程度は汲んでくれます。でも、何もわからない新人だと「これをやって」と言われても、考えられないし動けない。「これ」が何なのかを説明しなければならぬので、難しいです。これからの目標は、「ああいう人に

なりたい」と思われるような現場監督になることです。知識が豊富ということもさることながら、人としての魅力も兼ね備えている、バランスの取れた現場監督になりたいと思っています。

わたなべとしむね

1989年 東京都生まれ
2009年 理工学部建築学科入学
2012年 卒業
理工学研究科博士前期課程
建築学専攻入学
2014年 修了
清水建設株式会社入社



学部長からのメッセージ

モラトリウムな

時間を大切に



理工学部長
建築学科教授
岡田 章

大学生としての4年間は、社会に出るまでの猶予期間という意味で「モラトリウム」と呼ばれることがあります。小此木

啓吾氏の『モラトリウム人間の時代』(1978年)出版以降、広く使われるようになった言葉です。

学生のみなさんは、入学前、ユメや理想にあふれた大学生活を思い描いていたと思います。ところが、現実には、レポートや課題に日々追われているという方も多くはないでしょうか。今号のテーマは就職活動ですが、この「モラトリウム」な時間の過ごし方は、みなさんの

将来を左右するといつても過言ではありません。

理工学部のカリキュラムは、学部創設時から一貫して、実験・実習を重視してきました。加えて昨今は、卒業後の姿をより具体的にイメージできるように、研究と実践を見据えたキャリア教育を導入しています。学生に課されているタスクは比較的多いかもしれませんが、それは、「ものづくり」の担い手を育て、社会に貢献できる人材を

輩出するという私たちの使命に依拠しているのです。

私の研究室では、年に1回、卒業生と現役生が一堂に会する懇親の場を設けています。産学官のさまざまな分野で活躍しているOB・OGたちが、理工学部での「学び」の成果を異口同音に語ってくれていることに、私は大きな喜びを感じています。前号の巻頭言で言及した【CST×DREAM】というスローガンにも、各要素におけ

る座学と実学とが有機的に結びつくことではじめて、学生一人ひとりのユメがリアルになるという思いが込められています。

4年という時間は本来にあつという間です。手を動かし頭を動かしながら、今号でインタビューを受けていただいた4名の学生のように、自分自身のアイデンティティーを確立し、ユメに向かう扉を開く大切な「モラトリウム」にしてほしいと願っています。

2018年度就職活動 いよいよ始動!

就職指導担当 関 文夫 (土木工学科教授)



皆さん、いよいよ2018年度就職活動が始まりました。日本大学理工学部で数年間学び、いよいよ将来の夢に向かって目指す時が来ました。しっかりと自分と向き合って、就職活動に取り組みましょう!

1 2018年度就職活動

民間企業

日本経済団体連合を含む450の経済団体・業界団体は、2019年入社の採用選考に対し、広報活動(企業説明)は3月1日以降、選考活動(採用試験)は6月1日以降と定めており、正式な内定は10月1日以降となっています。さらに、選考活動につながるような1日限りのプログラム(ワンデーインターシップ)について、実施しないこととされていますが、外資系企業や上記団体企業でも、名称を変更したプログラムが数多く企画され、実際は早めに動き出しているため、注意してください。学生の皆さんは、学科や就職指導課の信頼できる情報を入手して、焦らずに、落ち着いた行動してほしいと思います。

公務員採用試験 国家公務員総合職の試験申込が4月9日まで、1次試験が4月29日を始めに、都道府県庁、政令指定都市、国家公務員一般職、市区町村と順次に試験が実施されます。試験日程や試験登録は、ホームページで行うことが多いの

で、早めに閲覧しましょう。

教員採用試験

公立学校では4月末日から願書受付が始まり、1次試験が7月上旬、2次試験が8月上旬から9月中旬まで行われます。試験願書受付は、ネットと郵送がありますので、期限に注意して送付してください。

また、私立学校では、各学校が独自に採用活動を行っていますので、学校ごとの情報収集が必要になります。

2 就職活動の準備

就職関連の冊子を活用してみよう

就職指導課では、「CAREER 2018」を作成しました。理工学部のオリジナル就活用冊子で、コンピューターによる自己分析の手法から、エントリーシート(以下、ES)や履歴書の書き方、メールの書き方、電話の掛け方、企業訪問等の就職活動のマナーまで詳細に記載されています。スマホ版もダウンロードできるので、学部



にしていますので、学部

ホームページ「就職支援情報」を参照してください。

就職指導課を訪問してみよう

駿河台キャンパスは、お茶の水校舎2Fに就職指導課、船橋キャンパスは、図書館1階にキャリア支援センターがありますので訪問してみてください。各種企業情報や公務員試験の情報、過去問題の閲覧が可能です。さらに、常駐のキャリアアドバイザーがいますので、就職全般に関する相談、履歴書やESの添削、面接対策の指導を受けられます。

就活支援サイトを活用してみよう

リンクナビ、マイナビ、キャリアリスなどの就活支援サイトは、企業の説明会やインターンシップ、合同企業セミナー、エントリー等の日程や時間、各種情報が掲載されます。事前に登録が必要ですので早く登録しましょう。

行事(セミナー、説明会、講座)に参加してみよう

学部主催の各種行事は、11月ごろから行っています(表1)。学内セミナーは2月、合同企業セミナーは6月に企画されています。この他にも、各学科が主催する業界セミナーや企業説明会なども開催されますので、情報を入力してください。



		3年生/修士1年生						4年生/修士2年生								
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
民間企業	対策講座等	▶業界セミナー			▶学内セミナー			▶合同セミナー								
	選考	▶ES・履歴書			▶面接講座											
公務員	対策講座等	▶合格者体験談			▶公務員セミナー											
	選考	▶面接カード対策			▶試験対策講座:実践コース			▶試験対策講座:合格完成コース			▶面接試験対策講座					
	選考							願書送付★国家公務員採用試験			地方公務員採用試験					
教員	対策講座等	▶合格者体験談			▶教員セミナー											
	選考	▶論文対策						願書送付★			教員採用試験					

内定式/採用決定

表1 学部就職指導課の行事と就職活動一覧表(2017年度参考)

3 就職先に悩んだら

行動を起こしてみよう

「自分は何をしたいのか?」みんな悩んでいます。焦らずに、行動を起こしてみることで。企業セミナーや学内セミナーに参加して、将来の自分の姿を重ねながら、なりたい自分を少しずつ探してみよう。大学院に進学して、2年後に進路決定するという考え方もあります。

周りの人に相談しよう

ひとりで悩まずに、気軽に話せる友人、家族、親せき、先輩、教員と相談してみよう。学科の中にも、就職指導担当の教員や元企業人の教員、学科OB・OG、研究室に所属する社会人などもフォローしてくれると思いますので、悩んでいることは、周りの人に相談しましょう。もちろん、就職指導課の職員、常駐のキャリアアドバイザーにも対応しますので、気軽に相談してください。

進学が就職に悩んでいる人へ

目指している企業や公務員の内定者の大学院採用比率を調べましょう。技術系大企業は、7~8割が大学院修了採用です。大学院に進学することで、圧倒的にものを見る視野が広がり、考え方や説明力が向上しますので、ワンランクアップした自分で就職しましょう。

4 資格及び試験

在学中に取得でき、就職活動に有利な資格

としては、技術士補(技術士第一次試験合格者)とFE(米国技術士補)の資格があります。技術士補は、3年生の10月に試験を受け、合格発表が12月ですので、就職活動にも役に立ちます。米国や海外に進出している企業に就活する場合には、FE試験が役に立ちます。しかし、卒業見込み条件が受験条件になっているため、登録、受験申込試験、合否判定となると最短でも4年生の5月くらいになります。



就職活動中の時は、FE試験登録中という記載で、仕事に対する熱意が伝わるかも知れません。また、主要企業では、ESにTOEIC L&R試験のスコア提出を求められますので、早めにスコアアップの対策を立てることも大切です。

5 2019年度以降の就職活動に向けて(1,2年生対象)

自分と向き合う

就職活動の時期が来ないと、就職関係の冊子も読むことなく、就職情報もあまり目に留まらないことと思います。就職活動の前に、「なりたい自分を探す」という重要な

準備が必要です。「自分と向き合う」ためには、1,2年生の時間が大切であることは、言うまでもありません。本を読む、旅に出る、人と会う、研究、イベント、ボランティア等、さまざまな体験から、自分と向き合ってください。

就職活動には準備が必要

「就職活動に失敗した人」に共通していることは、3年生の3月まで何も準備していない人です。何となく希望する会社はあったけれども、突然3月から企業訪問が始まり、ESも志望動機も一夜漬けで、曖昧なまま記載してしまった。結局、第一志望の企業は、連絡が来ない(企業によっては、不合格の場合、連絡無しという場合もあります)。インターンシップやOB・OGからの話を聞き、3年生10月までには、ある程度の進路の方向性とそれに向けた資格試験やスコアを用意することが肝要です。就職活動には準備が必要です。

いよいよ始まりましたが、これからは、自分を最大限にプレゼンテーションできる履歴書、ES、面接カードを作成し、1次試験や面接試験に臨んでください。10月には、笑顔で研究に打ち込んでいく姿を期待しています。



就職活動レポート (企業編)

内定



(株)竹中工務店 (総合職技術系)

足立 桜 建築学科4年

Q 建築学科に入学した経緯

私は横浜の市立高校出身なのですが、グラウンド側から校舎を見ると船の形になっています。あるときそのことに気づき、大きな建物もきちんとデザインが考えられ、人の手でつくられていることに思い至り、自分も建物をつくることにかかわりたいと思いました。

Q ゼネコンを目指したきっかけ

私は周囲よりも就職活動の開始が遅かったのですが、3年生の11月に初めて行った建設会社のインターンシップでマンションの建設現場を見せていただき、大規模で多くの人が利用する施設はやりがいがあると感じ、ゼネコンを志望しようと思いました。そのときちょうど、竹中工務店で説明会とグループワークの募集があったので、そこに参加したことが内定につながる第一歩になりました。

Q 就職活動を振り返って

私は陸上競技を大学生活の重要な位置に置き、最後までしっかり取り組み結果も出しました。陸上競技だけでなく、大学の勉強も頑張り、両方とも100%の力で取り組んできたことは自分の自信になりました。みんなが就活を始めているときに私はまだ競技をしていたので、「これでいいのか?」と思うこともありましたが、逆にそれが私自身の特長としてアピールするポイントになりました。

陸上競技を通じて、「大学生活で得たこと」を聞かれたときに答えられることが、たくさんできました。記録樹立ももちろんですが、お互いに高め合う友人ができました。本当に、「陸上競技を続けてきて良かった」と思います。

Q 施工管理として目指す姿

インターンシップで会った現場の職人さんたちのお話から、コミュニケーションを取り現場の雰囲気をよくすることも施工管理の大事な仕事だと教わりました。竹中工務店の現場は、職人さんたちを大切にしています。作品に愛を持って向き合っている職人さんたちと一緒に建物をつくっていきたい、そういう仕事を一生やっていきたいと思いました。

現場に女性は増えてきていますが、まだ多くはありません。私は数年後に入ってくる後輩に「こうなりたい」と思われるような、女性ならではの働き方のロールモデルになりたいと思います。

就活のポイント

- ★説明会用のノートを作成しよう。以前参加した合同説明会で話を聞いた企業のメモを見返し、次の機会には以前説明されてわからなかったことを質問するようにしました。
- ★現場見学会には積極的に参加しよう。各企業の特徴がつかめ、自分に合うか合わないかがだんだんわかるようになります。
- ★勉強と陸上競技で自分の力を半々に分けるのではなく、大変だけど自分の納得できるギリギリまでどちらもやりきったことで、結果的に志望する就職ができました。



採用までの流れ

3年生
11月下旬

竹中工務店のインターンシップにエントリー

このときに「建築技術・建築施工」希望としてエントリー。

12月上旬

合同説明会に参加

説明会用ノート：企業ごとに、合同説明会やインターンシップで説明されたことをメモし、次回の質問に役立てた。



12月中旬

インターンシップに参加

業界・職種の概要説明、グループワーク、先輩社員の方々に話を聞く。

1月中旬

現場見学会に参加

江東区の小学校建設現場を見学。さまざまな構造でつくり、デザイン性にも優れた「作品」で、現場の方々にも「誇りを持ってより良いものをつくろう」という意識が見られ、こういう所で仕事がしたい、という気持ちになった。

エントリーシート提出、SPI試験、一次面接

研究内容のプレゼンテーションを含む面接。小学生のときからずっとやってきた陸上競技の経験を絡め、スタジアムの構造についての研究をしたい旨を説明。



プレゼンテーションシート

理工学部建築学科 OB・OG 訪問会に参加

最終面接

一次面接と同様、研究内容のプレゼンテーションを含む面接。エントリーシートや成績表に基づく質問を受けた。

合格発表

4年生
7月上旬

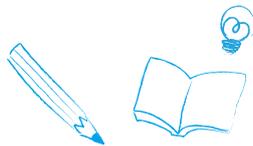
内々定者懇親会

10月2日

内定式



関東クラブ対抗陸上競技大会
400mHで4年連続優勝。
2016年大会では大会新記録も樹立。



内定者による

採用までの流れ

3年生 夏休み **企業のインターンシップに参加**
まだ具体的な希望がなかったため、機械工学科の就職実績が多い自動車関連の企業を選択。

11月 **JALパイロットインターンシップに参加**

4年生 5月 **JAL(地上職技術系)にエントリー**

8月 **JAL(地上職技術系)一次面接(不合格)**
2社内定(辞退)
大学院進学と、その後の航空業界への再チャレンジを決意。

M1生 9月 **自動車会社のインターンシップに参加**
約4週間の実習を通じて、自身が大学院で研究している炭素繊維強化プラスチック(CFRP)についての企業での取り組みや、自動車会社での働き方、会社の雰囲気を知ることができた。

1月下旬 **JAL(地上職技術系)セミナーに参加**
参加にはエントリーシートの提出と面接選考があり、エントリーシートは気合を入れて11月から下書きし、就職指導課にも相談。セミナー内容は、航空業界の説明、自社の事業説明、地上職技術系の仕事の紹介、現場見学、社員との座談会、グループワークなど。



業界研究のための書籍類

3月上旬 **OB訪問**
航空会社勤務の方を中心に実施。研究室のOBや他学科のOB、セミナーでお世話になった社員の方々とお話を伺い、仕事への理解を深めた。

3月下旬 **JAL(地上職技術系)説明会**
後日、エントリーシートを渡される。(4月下旬に提出)

M2生 6月上旬 **JAL(地上職技術系)一次面接、二次面接、三次面接**
チームで行動するときに、たとえ嫌なことがあっても先頭に立って取り組む姿勢(率先垂範)に重きを置いていること、またセミナー等を通じて社員の方々と実際に接し、一人ひとりがお客さまのためにどうしたら良いかを常に考え行動している姿に共感し、自分自身もそうした熱意を持って働きたいことをアピール。(長所、短所、研究内容についても詳しく説明)

10月1日 **内々定** **内定式**



日本航空(株) (地上職技術系)

大室 涼 機械工学専攻博士前期課程2年

Q 大学院に進学した経緯

私は一浪して大学に入学したので、高校の友人は私よりも先に就職が決まっていた。それを見て「少しでも早く社会に出て働きたい」と思い、学部3年生のときから就職活動を始めました。しかし選考が進むにつれ、「自身の興味のある研究を思う存分できるのは、学生である今の時期しかない」と思うようになり、4年生の夏に大学院進学を決意しました。

Q 航空会社を目指したきっかけ

3年生の冬にJALのパイロットインターンシップに参加したことがきっかけです。幼い頃から航空業界に興味がありましたが、自分には手が届かないとも思っていたので、この経験から自分にもチャンスがあるのではと考えられるようになり、航空会社が就職先の第一候補になりました。

Q 就職活動を振り返って

私は就職活動を二度経験しましたが、一度目と二度目の違いは「本気度」です。本気で取り組むと行動に積極性が生まれます。一度目は、情報収集やOB訪問はしなかったのですが、二度目は志望業界に勤めるOBを自ら探してアポイントを取り、話を聞くなど積極的に行動しました。また、一度目は業界研究や自己分析に関しても十分にできていなかったため、その反省を踏まえて「やっておけばよかった」と思うことはすべて実行しました。



情報整理用のノート：
(上) セミナーやインターンシップで得た情報を整理。
(下) 面接での質疑応答を書き起こし、反省を次回に生かす。

一方で、学生生活に後悔を残さないよう大学院に進学したので、研究にも全力で取り組みました。国内外の学会にも積極的に参加して得た、相手に論理的に研究を説明するスキルなどは、その後の就職活動にも役立ちました。

Q 航空会社社員として目指す姿

JALにはたくさんの部署があります。自分が配属された部署で、その仕事に関してはほかの誰にも負けないような知識やスキルを身につけ、「これは大室に聞け」と言われるような存在になりたいです。それだけの知識やスキルを持っているということは、それだけ企業に貢献できるということです。何かしらの分野でナンバー1になり、信頼される人材になりたいと思っています。

就活のポイント

- ★ 早め早めに行動すること。とくに志望業界は早めに決定しよう。そのためにも「自己分析」と、就活が本格化するとなかなか手が回らない「SPI対策」は、早めに準備しよう。
- ★ エントリーシートは第三者に添削してもらおう。客観的な視点での指摘は参考になり、洗練されたエントリーシートが作成できます。就活のプロである就職指導課の方に見てもらうことを、強くお勧めします。

就職活動レポート (公務員、教員編)

内定



新潟県 (土木職)

内藤 健也 まちづくり工学科4年

Q まちづくり工学科に入学した経緯

将来、どんな仕事をしたいかなんてまったく考えられず、「大学に入ったら、きちんと考えよう」と思っていました。高校3年生のときに理工学部のオープンキャンパスに参加して「まちづくり工学科では幅広い分野が学べ、入学後に自分の方向性が決められる」と聞き、自分に合っていると思いました。

Q 地方公務員を目指したきっかけ

まちづくり工学科には、「インターンシップ」が3年生の履修科目としてあります。ここで具体的に「どういう仕事に就くか」について考えました。東京で就職することも考えましたが、家族と相談し「地元へ帰ろう」ということになりました。私は新潟県出身なので「地元を活性化したい」という思いから「公務員がいい」と思うようになりました。市町村単位だとできることが限られますが、県は事業規模が大きいので大きな工事に携われ、まちを大きく変えることができるのが魅力的だと考えました。

Q 就職活動を振り返って

4年生の4月は本当に焦りました。私は理工学部スキー部に所属していますが、3月にスキーの大会があり2月と3月はあまり勉強ができなかったため、周囲と勉強量の差が大きく開いてしまったのです。でも、それは前もってわかっていたので、前倒しで勉強しておけば良かったというのが「反省点」です。逆に「良かったこと」は、3年生の夏休みに新潟県庁でインターンシップに参加し、就職活動のスタートを早められたこと。先輩職員に、どんな勉強をしたのかを聞くことができました。また、土木工学科以外の学生が土木職を受験するのに、授業では習わないことも勉強する必要があります。そのため、いろいろな自治体が主催する勉強会やセミナーに参加して「土木工学科卒以外の土木職の方」を見つけて勉強の仕方を教わり、効率的な勉強方法を確立しました。

Q 新潟県職員として目指す姿

新潟県は人口が減少してきています。ほかの地域で育った人を移住させることは難しいので、進学のために新潟県を離れた人がたくさんUターンしてくれるようなまちづくりをしていきたいです。私は卒業研究で「移住」について研究しています。これまでのようなハード面での取り組みだけではなく、ソフト面の整備もして、できるだけ多くの人たちが戻ってきてくれるようなまちづくりをしていきたいです。

就活のポイント

- ★公務員志望の仲間数人と勉強会を開催。お互いの苦手箇所を教え合うことができました。
- ★民間企業に比べて公務員は選考スケジュールが遅いので、周り比べて焦らないこと。(焦って企業の就活を始めると、労力と勉強時間が削られ、もったいない!)
- ★研究室配属やインターンシップ参加の際、成績で振り分けられてしまい、そこで将来が変わることもあり得ます。「はっきりした目標」ができたときに、自分で自分の足を引っ張らないように。
- ★自治体が主催する勉強会やセミナーには、面接の受け答えに関するヒントがたくさんある。積極的に各種セミナーに参加してください。



採用までの流れ

3年生
8月

新潟県庁(土木職)のインターンシップに参加
2週間、いろいろな部署でいろいろな方にお話を聞き、現場も見られ「ここで働きたい」と決意。

後期

公務員試験対策の勉強開始

一次試験(一般教養/専門)のうち、「一般教養」の勉強から。とくに「数的処理」はウエートが高いため、毎日2~3時間は勉強。「一般教養」で勉強の癖をつけてから、「専門」の勉強に移行。大学主催の公務員試験対策講座も受講。



問題集: 一次試験対策用に使用した。

4年生
4月

一次試験対策の勉強本格化

3月にあったスキーの大会のため冬はほとんど勉強ができなかった分、4月からは一日10時間ほど勉強に充てた。



第44回全国学生岩岳スキー大会(2017年3月)アルペン競技の部、男子スーパー大回転で優勝。

5月

受験申込



「一般教養」と違い「専門」は参考書がほとんどないため、ノートを活用。とくに「数的処理」は時間をかけて勉強。

6月下旬

一次試験、その後すぐに二次試験対策

二次試験用の「小論文」の練習と面接カードの下書きは、どちらも就職指導課の方と研究室の教授に見ていただいた。面接対策は、想定される質問への応答を準備。会話のキャッチボールができるよう、面接カードには自分が聞いてほしい質問につながる事項を書くようにした。

7月下旬

二次試験(集団討論、個人面接)

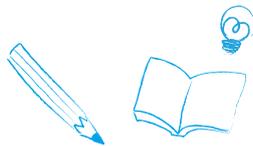
「集団討論」では「司会」をして参加者の意見のまとめ役に。まちづくり工学科の「ワークショップ」の授業が役に立った。「個人面接」では中学、高校、大学と運動部の部長をした経験から得られたリーダーシップをアピール。

8月中旬

合格発表

10月2日

採用内定



内定者による

採用までの流れ

1年生

教員採用試験用対策の参考書を読む

電車の中でパラパラと本をめくることから始める。

3年生

11月

一次試験対策の勉強本格化

自宅と大学内のリーディングルームにこもり、参考書と過去問題をひたすら勉強。

4年生

4月上旬

募集要項発表

5月上旬

受験申込

就職指導課の方や教職課程の先生に面接票の下書きを見ていただき、何度が書き直す。一次選考の「教職教養」「専門教養」「小論文」のうち、「小論文」は教職課程の先生にアドバイスを受けながら練習。

5月下旬

教育実習

3週間、板橋区内の中学校にて。想像以上の大変さと得られるやりがいがある「さらに勉強しよう」というモチベーションにつながる。教育実習後は大学の前期試験があり、この間はほとんど勉強ができず焦る。

7月上旬

一次選考

8月上旬

合格発表、二次選考の準備

二次選考の「面接」に持参する面接票と単元指導計画を2週間で作成。

夏休み中のため教職課程の先生にメールで相談し、中学校の技術科目で採用された卒業生を紹介してもらい、単元指導計画の書き方を教えていただきながら作成した。



(左) 二次選考で提出した「単元指導計画」の作成案。ある単元をどのように進めていくのか複数時間にわたって組み立てた指導計画。教科内のどの単元を選ぶか、というのも受験者の自由。
(右) 二次選考での集団面接のために、自分の考え方を整理。

8月下旬

二次選考

「面接」では志望動機や理由を自分の言葉で説明できるように、と就職指導課でアドバイスを受け、準備した。本番では「多くの子どもたちがいて、地域特性がある中で、自分の教育像を磨き上げていきたい」と説明。

10月13日

合格発表

10月31日

採用説明会

内定



東京都公立学校教員(中学校 技術)

須貝 友貴 海洋建築工学科4年

Q 海洋建築工学科に入学した経緯

中学校の技術科目と高校の工業科目の教員免許が取れること(実際に両方とも、取得)。とくに中学の技術の免許が取れる大学はそう多くないので、入学を決める大きな要因になりました。さらには、免許が取れる上に勉強できる内容が「建築」だというのが面白そうだと思います。

Q 教員を目指したきっかけ

中学生の頃に抱いた「先生へのあこがれ」と、ものを教えるのが好きだったからです。人と話すのが好きだということもありますが、とくに大学生になってから「人を育てる」ことに強い魅力を感じ、本格的に教職を目指すようになりました。アルバイトで塾の講師もしています。

Q 就職活動を振り返って

もともと教職志望だったにもかかわらず本格的な勉強のスタートが遅かったので、もう少し早く始めれば良かったです。一次選考の点数があまり良くなかったため、「準備が間に合っていなかった」と反省しました。でも同じ学科で教員志望者がまったくいない中、1、2年生のときから教育関連の本を読み、一人で教員になるためのモチベーションは上げていました。また、ニュースで取り上げられている教育関連の事項も、自分の問題として考え自分なりの意見を持つように意識していました。それらは、「良かったこと」に挙げられます。

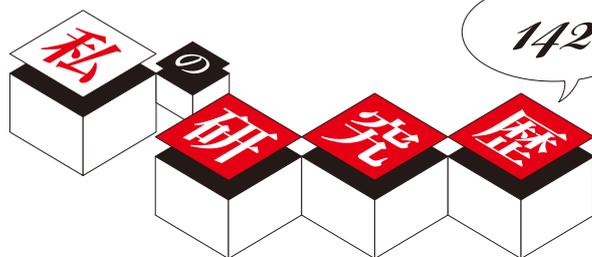
私は東京都の教員になるのが第一志望でしたが、大阪府の教員採用試験も受けていました。三次選考の日程が東京都の二次選考と重なり途中で辞退しましたが、選考を進めるうちに「やはり東京がいい」と強く思うようになりました。そうやって選考を経ながら自分の気持ちが整理できたので、大阪府の採用試験も経験できて良かったと思います。

Q 教員として目指す姿

生徒を見守り、最後まで見捨てずに、卒業からその先までも考えられる教師でありたい。また、生徒一人ひとりの持ち味を良い方向に伸ばしていきたい。技術科目に関しても、「ものづくり」の面白さや、手を動かしながら頭を使う楽しさを伝えていきたいです。

就活のポイント

- ★思い立ったら、即行動。やって損をすることはありません。「教員になりたい」と思ったらすぐに、1、2年生からでも勉強を始めてください。
- ★興味がある分野にはインターンシップ参加が有効。私は3年生の2月に、文部科学省初等中等教育局のインターンシップに参加。国家公務員志望の参加学生が多かったのですが、中には教職志望の学生もいて情報交換ができ、自身の視野を広げる刺激になりました。
- ★「学科の授業内容は教員採用試験に関係ないだろう」と聞き流すのはNG。実は大いに関係があることも。まったく関係がないと思える内容でも「ものづくり」という視点を持てば、「どうやって中学教育に還元できるか?」と自分なりに考えられ、面白いです。



電気工学科教授

小野 隆

安全・安心・

癒やしを求めて

私の研究の根底には「安全・安心を求めて」といったテーマがある。最近では、「癒やし」も含めているが、世の中のお役に立てることの研究を行っている。

さて、月日の経つのは早いもので、電気工学科に奉職して、38年近くになる。私が大学に入った頃は、大学紛争が下火になりつつあり、大学生活も平和な日々であろうかと思っていた。しかし、そうは問屋が卸さないもので、2年生の後期試験の日、大学に行ったところ、旧1号館が閉鎖され、試験ができない状態になっていた。その後試験は行われたのであるが、それまで試験時間が90分間であった電磁気学などは60分間に短縮され、解答に大変苦労したことが思い出される。それ以後、各試験時間は60分間に変更されたと記憶している。

3年生の後期試験が終了し、研究室を選ぶのであるが、現在の電気工学科のシステムと違って、各人が希望の先生の所に行き、許可を受けるスタイルであった。計測工学研究室に向いて行ったが、当



時、研究室は大部屋で、室井徳雄先生、石井弘允先生、肥後尚志先生、佐々木嘉雄先生が居られた。石井先生に面接を行っていたら、大胆にも「コンピュータを使っていた計測をやりたい」と申し出たところ、「次の日から来なさい」と言われた。石井先生はコンピュータを自作しようとして学生とともに研究を始めていたので、私が面白い学生に映ったのであろう。石井先生の下で研究を始めたのであるが、最初は、非常用照明器具の内部温度の計測と制御の研究、その後、当時出始めであった光導電素子であるCDS（セレン化カドミニウム）と発光ダイオードを用いた位相差測定法に関する研究を手掛けた。これが卒業研究となり、翌年度に北海道札幌市で開催された電気学会で初陣を飾った。

しかし、このテーマはどうも自分のやりたいこととは違っていたので、コンピュータの作成班にも入り、二足の草鞋で研究を行った。当時、コンピュータを自作するのは大変な作業で、完成の暁に

は、皆涙が出るほど嬉しく思ったものである。

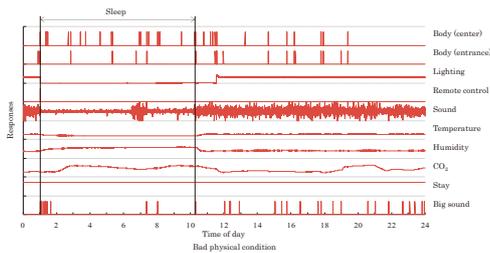
このまま大学院へ進学しようと思っていた4年生の2月末ごろ、室井先生から「佐々木先生が視覚に関する研究をされているので、その研究を手伝いなさい」と言われ、大学院では佐々木先生の下で研究を行うことになった。一からの出直しであるが、良くしたもので、佐々木先生の下にも私の友人がおり、その友人から1カ月みっちり研修を受けた。大学院では視覚に関する快・不快の限界輝度であるBCD (Bordine Between Comfort and Discomfort) 輝度に関する研究を手掛け、まぶしきに関する感覚(グレア感覚)は、視角によって異なり上方向よりも下方向が高いことや欧米人とは異なることなどを明らかにした。

修士課程1年の8月、卒業研究で行ったCDSと発光ダイオードを用いた位相差測定法に関する研究を、緊張感あふれる中、電気学会で発表した。発表前日に先生方、院生の方々とジンギスカンを食べに行ったのであるが、途中で室井先生が「発表練習をやるう」と言われてホテルで一人(学会へ行ったM1は私一人だったので)練習を行い、学会発表は大変なことであると実感した。学会発表の後、院生の先輩方と「せっかく北海道まで来たのであるから周辺を探索して帰ろう」ということになり、1週間ばかり旅行をしたのもいい思い出であった。

その後、博士課程へ進学したのだが、1年生の後期に室井先生から「助手になりなさい」と勧められ、大学へ奉職する

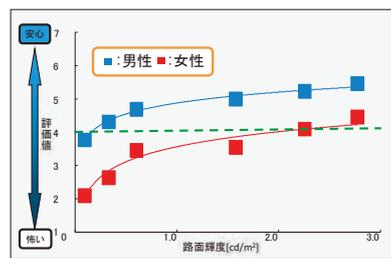


CGを用いた霧発生時の風力発電機の視認性の実験

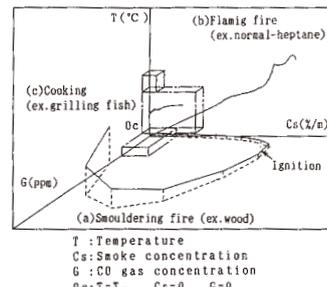


複数センサ応答による単身者の監視システム

「路面輝度と「怖い-安心」の評価値との関係」



住宅の街路照明の適正化に関する研究
(男性と女性の感覚の違い)



温度、煙、COガスによる
3次元空間上での火災予測と判別

ことになった。しばらくは視覚特性やサ
ーマルカメラの特性改善などを手掛けて
いた。この頃、自分自身のやるべき研究
を決めなければいけないと考えていたと
ころ、石井先生より「火災の検知に関す
る研究をやらないか」とお声がかかり、
これは世の中のためになると思い、再び
石井先生の下で研究を行うことになっ
た。

火災の検出はそれまで、主に温度と
煙を感じる単一のセンサで行ってい
た。しかし、よく考えてみると、人的被
害は煙に巻かれるだけでなく、一酸化
炭素(CO)によることも多く、COを検
出するガスセンサが必要であると考え
た。委託研究を頂いた企業に2年間、夏
休みはほとんど通い詰めで実験を行っ
た。得られたデータから温度、煙、CO
ガスの3次元上での時間的、空間的ト
レンドから初期火災を予測、判断する新
しい方法を提案し、日本大学より学位
を頂いた。火災に関する国際会議での
発表は International Conference on
Automatic Fire Detection (AUBE)
で1989年から継続して行っている。
この国際会議は、数年に一度、ドイッ
ク(Universitat Duisburg-Essen)とアメ
リカ(National Institute of Standards
and Technology: NIST, Washington
D.C.)で交互に開催されており、
2009年からは Program & Steering
Committee 並びに Session Chair を務
めている。この間、1999年に NII
S Tで「火災の初期性状の解析と検知
に関する研究」で共同研究をさせてい

ただき、パートナーであった Thomas
Cleary 氏とは、今も友人として付き合
っている。その後、画像を使用した火災
の検知方法、および光ファイバケーブル
を用いた共同溝や洞道などの火災の検
知方法について提案した。現在は Fire
Brags Gratings (FBG) センサによ
る火災検知を行っている。

1991年ごろからは、医学部と共同
で研究を行い、断層心エコー画像から心
臓壁を鮮明に抽出する方法の提案、心臓
弁の動きの解析、造影MRIにおける心
筋梗塞巣の抽出、および予後の状態計測
による診断支援などを行った。現在も医
学部や歯学部の先生と共同で研究を行っ
ている。1993年ごろからは、遺伝的
アルゴリズムを適用した船舶の衝突回避
システム、ポアホールテレビジョンの
画像処理による地盤や地質の計測、AE
波を利用した建造物の健全性の予測など
を行った。

照明関連の研究として、1995年か
らは、高速自動車国道トンネル内の交通
事故軽減のための照明環境の改善を行
い、2005年からは住宅の街路照明の
適正化について研究し、夜間の住宅街に
おいて、安心して安全に歩くための輝度
は、女性は男性より約1.3倍必要であ
ることを明らかにしている。

この間、照明学会では編集調査理事、
総務理事、東京支部長、副会長などを歴
任し、電気学会、火災学会、計測自動制
御学会などの学会活動は言うまでもな
く、国土交通省や消防庁など国の委員会
さらには照明工業会や日本建築センタ―

などの委員会で委員長・委員を務め、外
部の仕事も積極的に行ってきた。

現在の主な研究は、単身者や高齢者の
監視システムの研究で、画像処理による
方法と複数センサによる方法の両面か
ら、心筋梗塞などで倒れたヒトなど異常
な状態の早期発見に関する検討を行って
いる。さらに、霧発生時の自動車や航空
機などの事故軽減のために、散乱現象を
利用した霧中への交通情報の提示方法、
CGを用いた霧発生時における風力発電
機の視認性などについての研究を行って
いる。

おの たかし

- 1972年3月 神奈川県立 鶴見高等学校卒業
- 1977年3月 日本大学理工学部 電気工学科卒業
- 1979年3月 日本大学大学院理工 学研究所修士課程 電気工学専攻修了
- 1980年4月 日本大学理工学部 助手
- 1989年11月 工学博士(日本大学)
- 1990年4月 日本大学短期大学部 専任講師
- 1994年4月 日本大学理工学部 専任講師
- 1997年4月 同上助教
- 2005年4月 同上教授

これまで行ってきた研究の一端を紹介
させていただいたが、世の中のためにな
ると思った研究にチャレンジし、その成
果を何とかものにしてきたと思ってい
た。これもいろいろの研究をさせていた
だいたことが今の自分を形成しているの
だと思いい、そのチャンスを与えていた
いた先生方、企業の方々、ならびに共同
で実験を行っていただいた卒業生には感
謝の気持ちで一杯である。今後も「安全
と安心と癒やしを求めて」をテーマに楽
しく研究を進めていく所存である。



公開市民大学講座

2017年11月4日(土)

2017年11月4日に日本大学理工学部の船橋校舎で「公開市民大学講座——人・科学・文化の連携」が開催され、日本大学理工学部精密機械工学科の青木義男教授と、上智大学アジア人材養成研究センターの三輪悟研究員（日本大学理工学部建築学科卒業）による講演が行われました。

午前の部の青木義男教授による講演では、「国際学生連携による宇宙機器開発」について紹介されました。近年の高等教育では「分野融合」や「社会への実装」といったキーワードが取り上げられています。日本大学理工学部では、大学の教育理念である「自主創造」に基づき「未来博士工房」が設立されました。未来博士工房では、学生が授業以外で取り組んでみたい企画に対して、教員や技術員による指導や支援が受けられ、また必要な工作機械も使用できます。未来博士工房には現在7つの工房があり、学生の在籍学科にかかわらず、好きな工房で活動ができます。その中のひとつ「ロボット工房」では宇宙エレベーターの開発が行われています。また「航空宇宙工房」では、超小型衛星の開発が行われ、開発した衛星



青木義男教授

の打ち上げや、打ち上げ後の運用も行われています。

とくに超小型衛星のプロジエクトには長い時間がかかり、かつ多くの関係者と調整が必要のため、学生は衛星そのものに関する知識以外にも、プロジェクト成功のためのプラン作りや、関係各所に協力を依頼するためのプレゼンテーション能力も求められます。これらを学生が授業と並行して行うことはハードルが高いですが、得られるものはとても大きいのです。そのため、これから日本大学理工学部に入學する学生には、こうした活動に果敢にチャレンジしてほしいです。

午後の部の三輪悟研究員による講演では、「カンボジアの世界文化遺産を護る」活動について紹介されました。アンコール遺跡群は1992年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。内戦などの影

響により遺跡の管理が行われなかった時期もあり、当初は「危機遺産」として登録されました。そのため世界遺産登録後、遺跡を保護する機関「アプサラ機構」がカンボジア政府により設立されました。

日本では、1980年から上智大学の石澤良昭教授によるアンコール遺跡群の調査が始まりました。その後、アンコール遺跡群の修復と遺跡保護のための現地人材の育成にも積極的に取り組んでおり、



三輪悟研究員（上智大学アジア人材養成研究センター）

その活動は高く評価されています。現在はカンボジア政府の要請を受け、アンコールワット西参道の修復に取り組んでいます。カンボジア人による、カンボジアのための、カンボジアの遺跡保存修復」を活動方針として掲げています。こうした活動により、アンコール遺跡群は2004年に「危機遺産」の指定が解除されました。

しかしまだ課題は多く存在します。そのひとつは、各国や国際機関に遺跡管理を頼ってしまう体質が生まれ、カンボジア国内で遺跡修復に関するノウハウが育たないことです。また政治的な思惑が優先され、文化の保護や尊重が二の次になってしまっていることも、問題として挙げられます。これらの問題を解決するために、これまで日本が行ってきた文化財保存の技術と、三輪研究員らを取り組んできたカンボジアの現地人材の育成活動が大いに寄与できると考えます。

今回の講座への参加は、私にとっても貴重な体験となりました。この講座で見たこと、聞いたことを今後の自分の成長に生かしていきたいです。

File no. 69



建築構造デザイン研究会

私たち建築構造デザイン研究会は、サークル・メンバーが企画を立て、主に建築学科の学生に呼び掛けて参加者を集め、不定期に講習会を開催しています。2017年は、パソコン講習会を2回、模型講習会を1回行いました。パソコン講習会では、設計図面を描くためのCADの使い方を教えています。CADは授業では習わないのですが、建築業界に就職すれば必ず使うので、人気の企画です。多い時には50人ほどの参加者が集まり

ます。基本的な使い方の説明をした後、自分自身が課題で提出した手書き図面を、あらためてCADで書いています。

模型講習会は主に1年生を対象に、サヴォア邸（ル・コルビュジエ設計）の模型を1/100サイズで作成します。2017年の模型講習会には30人ほどの参加者があり、4グループに分かれて各グループ1つずつ模型を作りました。作りながらル・コルビュジエが唱えた近代建築の五原則についても説明するなど、



勉強になる内容となっています。

どちらも毎年行っている企画ですが、もっとサークル名の「建築構造デザイン」らしいことをしたいと考え、新たに橋の破壊強度を調べる模型実験を企画しました。2つの企画とは比較にならないほど参加者が少なく、がっかりしましたが、これからも建築構造デザイン研究会の名にふさわしい構造系の企画を立て、実施していこうと思っています。パソコン講習会や模型講習会も引き続き行いますので、皆さんぜひ参加してください。もし「こんなこともしてみたい」という要望があれば、今後の企画の参考にしますので、気軽にサークル・メンバーに声をかけてください。

File no. 70



将棋研究会

将棋研究会は、毎週月曜日16時半から19時まで、船橋校舎サークル棟にあるミーティングルームで練習対局を行っています。世間では「将棋ブーム」と言われていますが、自分たちはほとんど実感していません。ただ、2017年度は例年より新入部員が多かったので、多少は影響があったのかもしれません。活動日が週1回なのでほかのサークルとの掛け持ちもできますし、勉強やアルバイトにも差し支えありません。もっと高レベル

な対局を求める人や、週1回では物足りない人は、経済学部将棋部にも参加しています。駿河台校舎の学生にとっては、船橋校舎より近いというメリットもあります。希望者は年に2回、関東大学将棋連盟主催の棋戦に参加しています。春と秋に開催される古豪新鋭戦（古新戦）で、大学ごとの団体戦となるため他学部と合同で「日大チーム（A・B）」として参加します。

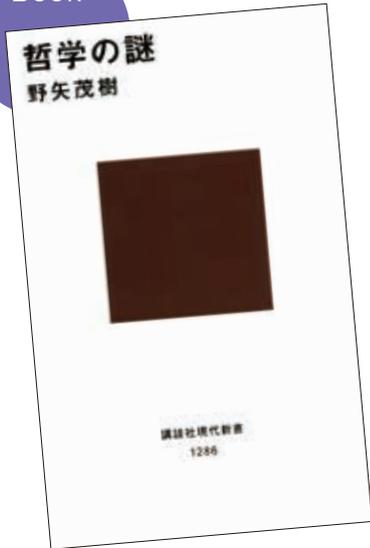
将棋をしていると論理的思考（ロジカルシンキング）が身につく、数学や物理には有利になりますし、先を見越した順序の組み立てができるようになるので、将来、仕事をする上でも役に立つと思います。しかも将棋なら、楽しみながら身

につきます。

将棋にはいろいろな定跡がありますが、定跡どおりの陣形になることはあまり多くなく、自分で考える必要があります。発想次第でいくらでも打てる手がありますし、それで勝てた時はうれしいです。難しそうに思われがちですが、駒の動かし方と定跡を少し知ってしまえば、いろんな人と対局するだけで自然と上達できるので、想像より簡単に楽しめます。ほかの競技とは違い、大学からでも始めやすいし続けやすいです。ぜひ一緒に将棋を楽しみましょう。



BOOK



『哲学の謎』

野矢茂樹 著／講談社現代新書

哲学の謎は、私たちの身の回りの至る所に潜んでいます。私たちは、しばしばそれを見過ごして、ふと気づくことがあっても、用心してあまり近寄らないようにしてしまいがちです。でも、不思議なことですが、あえてそれに向き合い「こんな当たり前のことも本当はよく分かっていないのか」ということが分ると、世界が前よりも少しだけ面白く見え始めます。

本書は、実在、意識、時間、知識、規範、意味、意志といった身近なテーマを幅広く取り上げ、そこに潜む哲学の謎をふつうの言葉で、明瞭に提示した最良の入門書の一つです。目次を眺めて目に留まった章から読み始めれば、きっと心惹かれる「なぜ」と出会えるはずです。

(一般教育教室人文系列助教 島村 修平)

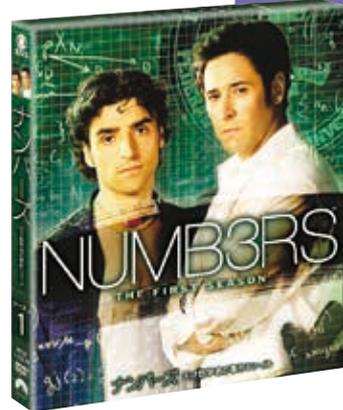
『ナンバーズ 天才数学者の事件ファイル』

FBI 特別捜査官の兄ドン・エプスと、天才数学者の弟チャールズ・エプスがたくさんの事件を解決していくストーリーです。弟のチャールズ・エプスはいろいろな数式を使って事件を解決していきます。さまざまな例え話を上げて数学が苦手な人にも分かりやすくしているのが見どころです。ここに出てくる数式はすべて実際にあるものなので、何が使われているのかに注目して見てみるのも面白いと思います。

数学は社会のどこで使われているのかパッと思いつきません。しかしこの作品のように、私たちの知らないところで社会の役に立っているかもしれません。あなたも数学科でいろんな事件を解決してみませんか。

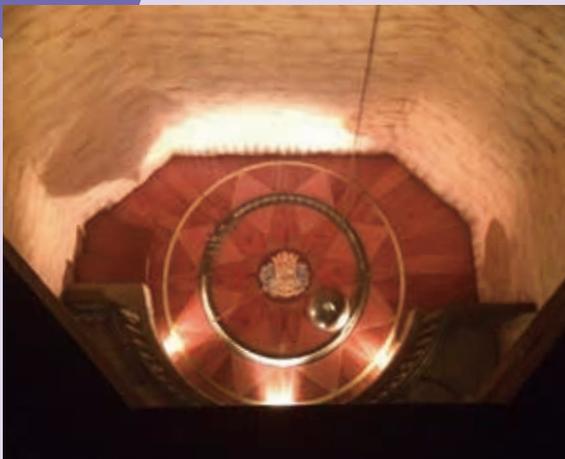
(数学科4年 原田 茜)

DRAMA



「ナンバーズ 天才数学者の事件ファイル」
全6シーズン発売中 各¥4,757+税
発売元：NBC ユニバーサル・エンターテイメント

SPOT



東京ディズニーシーにあるフーコーの振り子をご紹介します。このアトラクションでは、自分で歩いてフォートレス（要塞）やガリオン船内を探検しますが、この要塞内にフーコーの振り子が登場します。振り子が慣性系に対して振動面を保とうとするために、地球と一緒に自転する私たちからは回転して見えるというもので、アトラクションの舞台となる大航海時代当時の最先端の科学を代表するものです。意外な場所で「物理学」と歴史とのかかわりに出会うことが、物理へ興味を持つきっかけになるかもしれません。

(物理学科3年 青木 真凜)

東京ディズニーシー

「フォートレス・エクスプロレーション」

千葉県浦安市舞浜 1-13 (<http://www.tokyodisneyresort.jp/tds/>)



「平成 29 年度（第 21 回）理工学部英語弁論大会」を開催しました

平成 29 年 11 月 4 日（土）理工学部船橋校舎 14 号館で「平成 29 年度（第 21 回）理工学部英語弁論大会」を開催しました。英語弁論大会は、桜理祭の開催に合わせて、船橋校舎にて開催しています。本年度は、開会式後、6 名の出場者が熱弁を奮いました。スピーチの流暢さだけでなく、演目の内容や話題の面白さ、さらにその場での審査員による英語での質疑応答のやり取りなどで、英語能力の評価を図りました。表彰式の後のティーパーティーでは、出場者と審査員の先生方だけでなく、同級生なども参加し、和やかな雰囲気で大会を終了しました。なお、当日開催を予定していた「平成 29 年度（第 2 回）理工学部外国人留学生による日本語弁論大会」は、諸般の事情により実施しませんでした。

英語弁論大会の結果

- 出場者 6 名（学部 5 名、大学院 1 名）
- 優勝 小泉宏志 建築学科 1 年
- 準優勝 横坂卓也 航空宇宙工学科 3 年
- 第 3 位 織田みか 航空宇宙工学科 1 年
- 観客賞 谷佐衣子 機械工学専攻博士前期課程 2 年（学生課）



第 61 回理工学部学術講演会を開催しました

平成 29 年度第 61 回理工学部学術講演会は、12 月 1 日に滞りなく終了しました。本年度も多数の申し込みがあり、16 部会と 3 つの特別セッションで口頭発表 321 件、ポスター発表 290 件の合計 611 件の発表となりました。参加者は、口頭発表 1,796 名、ポスター発表 705 名の合計 2,501 名（延べ人数）と、大規模な学術講演会になりました。

参加いただいた大学院生、学部生、教員の皆様、また学術講演会を実施するにあたり、ご協力ご支援くださいました教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

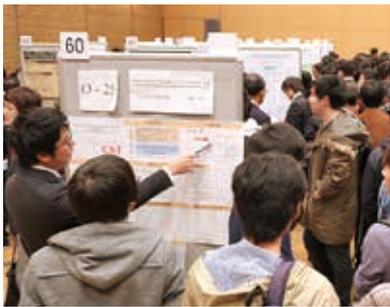
発表は本年度も駿河台校舎 1 号館で行い、口頭発表会場は 3 階から 5 階までの 12 教室を使用し、ポスター発表会場は 6 階 CST ホール、特別セッションは主に 2 階 121 会議室を使用しました。

口頭発表会場は、やや狭いなど不自由をおかけした反面、どの会場へも移動が容易であり、活気あふれる発表を満喫されたことと思います。ポスター発表は例年同様に CST ホールで複数の部会を同時開催しました。少なからず異分野との交流ができたことはとても有意義であり、また大勢の学生や先生方が熱心に発表者と質疑応答を交わっていただいたことは大変うれしい限りです。

また特別セッションは、第 16 回理工学研究所講演会、理工学部プロジェクト研究助成金成果報告、理工学部応用科学研究助成金成果報告、理工学部学術賞受賞者 2 名による記念講演が 121 会議室および各部会会場で行われました。研究所講演会は「理工学部における研究の社会実装—これまでとこれから—（その 2）」をテーマに、第 1 部は「産官学連携による防災減災に向けたドローン利活用の研究開発」と題して発表とパネルディスカッション、第 2 部は「研究の社会実装とは何か」と題し、日本大学産官学連携知財センター副センター長で法学部教授の金澤弘弘氏による特別講演、第 3 部は「超短時間光・物質相互作用の理解・制御が切り開く新材料・物性・デバイスの探索と創生」と題し、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の成果報告を行いました。

本年度も優秀な講演発表者（口頭・ポスター）に対して「優秀発表賞」として岡田学部長より表彰状が贈られます。学生の皆様がこの学術講演会をきっかけに、学会や国際会議等で発表されることを大いに期待しています。

また、平成 30 年度も 12 月に学術講演会の開催を予定しています。次年度はさらに多くの方の発表、参加をお待ちしています。（研究事務課）



**announcement
事務局からのお知らせ**

第 32 回日本大学理工学部図書館公開講座を開催しました

平成 29 年 12 月 13 日、理工学部駿河台校舎 1 号館 CST ホールで「全天 X 線観測で探し出すブラックホールと重力波源」と題して、物理学科根来均教授が講演されました。この度の演題の「重力波」ですが、2017 年にノーベル物理学賞が贈られた内容ということもあり、参加者の関心はとても高いものでした。講演終了後、質疑に入ってもその熱気はますます感じられ、それに対し丁寧に説明され、盛況のうちに終了しました。（図書館事務課）



第 56 回公開市民大学講座を開催しました

平成 29 年 9 月 30 日、10 月 21 日、11 月 4 日の 3 日間、理工学部船橋校舎で以下の講座を開講しました。それぞれ大変有意義な講座となりました。

- 「化粧品で活躍する粉の化学」
物質応用化学科教授 遠山岳史
 - 「これからの川づくり」 土木工学科教授 安田陽一
 - 「上達のコツを科学する！」一般教育教授 北村勝朗
 - 「国際学生連携による宇宙機器開発」
精密機械工学科教授 青木義男
 - 「カンボジアの世界文化遺産を護る」
上智大学アジア人材養成研究センター 三輪 悟
（日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了）
- ※「テニス教室」は雨天のため中止になりました。（庶務課）

Event Report

11月3日(金)祝～5日(日)の3日間、船橋キャンパスで第3回桜理祭が開催されました。3日には船橋キャンパスウォッチング、4日にはホームカミングデーが同日開催され、多くの方にお越しいただきました。

The 3rd Our Festival



来場記念

Funabashi Campus Watching 2017



Homecoming Day 2017



What a crowd!



1万「いいね!」👍 キャンペーン実施中!!

日本大学理工学部公式 Facebook ページあります。



日本大学の最大の特徴は、日本一規模が大きいこと。卒業生数は理工学部だけでも約23万人、日本大学全体では110万人超です。社会で活躍されている多くの卒業生と、その人的ネットワークの充実、大学にとっても在學生にとっても大きな財産です。これが本学の就職の強さにつながっているのは間違いないですね。とはいえ、個々の実力があるからこそ、この強みが活かされるはず。学力だけでなく人間力も合わせて、実力です。本学が保有する、学力・人間力を育てるためのさまざまな環境を活用して、実力をつけて社会に飛び出しましょう。(藤)

Circular

第11号

VOL.47
2018.WINTER
No.175

発行
日本大学理工学部広報委員会

広報委員長・編集長
轟 朝幸

編集委員会

大貫進一郎	小泉公志郎	加納奈保子	吉田 征史	江守 央	佐藤 光彦	重枝 豊
惠藤 浩朗	岡田 智秀	河府 賢治	渡邊 満洋	佐々 修一	戸田 健	岩田 展幸
高橋 聖	谷川 実	浅井 朋彦	吉開 範章	長峰 康雄	田中 和仁	杉山 岳寛
伊藤 潤一	石井 利久	小寺 貴久	小池 文夫	塚田 淳	鈴木 智子	

編集協力

株式会社ムーンドッグ (長谷川 香 細田 明子 熊木美千代)

18013123000